

論文のタイプ	原著
Author	Manabu Akazawa , Rachel Halpen , Aylin A. Riedel
Title	Economic burden prior to COPD diagnosis: A matched case-control study in the United States
和訳タイトル	COPD 診断までの経済的負荷：合衆国におけるケースコントロールスタディ
Journal	Respiratory Medicine
巻	102
号	
ページ	1744
年	2008
キーワード	COPD , cost , Healthcare , epidemiology ,
読んだ人	中尾栄男
読んだ期日	2009. 2. 17
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>米国では COPD 診断までに多くの過程を経るため、実際に治療にとりかかるまでに長い時間がかかる。また、COPD の増悪と合併症は医療サービスの必要度を上昇させる。COPD 診断までの医療サービス利用度とコストを検討した。30 万人規模のデータベース (United healthcare) から 40 歳以上で過去 12 か月に COPD として登録された 28968 人と、それに匹敵する規模の 3 つのランダム化試験から、COPD 患者群とコントロール群の医療サービス使用頻度とコストを比較した。COPD 患者群では入院や外来等の医療サービスの使用頻度は 1.5-1.6 倍であった。コストは入院費で 550 \$、外来で 238 \$、薬剤費で 401 \$ かかっていた。36 ヶ月間の傾向分析では COPD 群では医療サービスの利用度やコストは時間の経過とともに増加傾向を示した。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Shuzo Nishimura, Carol Zaher
Title	Cost impact of COPD in Japan: Opportunities and challenges?
和訳タイトル	日本における COPD の価格影響
Journal	Respirology
巻	9
号	
ページ	466-473
年	2004
キーワード	COPD, cost of care, disease burden, COPD、治療費、疾患による負荷
読んだ人	岩崎 奈緒香
読んだ期日	2009/02/18
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>GOLD は国民の健康や臨床的観点から COPD の重要性を強調する。米国では COPD の経済的影響が、多くの慢性疾患を上回っており今回、日本における COPD の経済的負担に関するデータについて解析した。スパイロメトリーに基づく疫学調査、学術専門誌、政府及び企業の調査を利用し、日本における COPD 治療費の総費用を推測した。日本における一年あたりの COPD 治療費の推定総費用は 8055 億円(直接経費 6451 億円、間接経費【社会的ロス】1604 億円)であった。直接経費として入院患者が 2441 億円、外来患者が 2993 億円、在宅酸素療法費が 1017 億円であった。また中等度もしくは重症の COPD 患者の年間平均治療費は 435876 円(直接経費 349080 円、間接経費 86797 円)であった。このように COPD は日本の医療体制に多大な経済負担を課す。今後、COPD 患者の増加を阻止するためには早期検診や適切な治療を行う等具体的な政策を取る必要がある。</p>

論文のタイプ	review
Author	Pauwels RA, Rabe KF
Title	Burden and clinical features of chronic obstructive pulmonary disease (COPD)
和訳タイトル	慢性閉塞性肺疾患の負荷と臨床的特徴
Journal	Lancet
巻	363
号	9413
ページ	613-20
年	2008
キーワード	COPD; Burden; clinical features 慢性閉塞性肺疾患、負荷、臨床的特徴
読んだ人	田尻守拡
読んだ期日	2009. 2. 23
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>COPD は世界中至る所で経済的、社会的負荷がかせられる。世界中の死因第 5 位であり、その有病率と死亡率のさらなる増加は来るべき数十年後に予想される。COPD と関連した罹患率はプライマリ・ケア医および患者にしばしば過小評価されている。同様に、COPD はしばしば過小診断、または治療されていない。また信じられている事実より早期に発症している。COPD にとってたばこは大きな危険因子だが、国間の罹患率の差は喫煙の割合、導入の時期により異なる。職業のリスクファクターとして貢献は小さいが経済発展国では可能性はあり、α-1 アンチトリプシン欠損、その他の遺伝要因の影響は確立していない。</p> <p>臨床診断は、呼吸機能検査において不可逆的な気流制限でなされる。禁煙は、呼吸機能低下を遅らせることができる。</p>

論文のタイプ	Review
Author	Alan Radin, MD, Claudia Cote, MD
Title	Primary care of the Patient with Chronic Obstructive Pulmonary Disease-Part1:Frontline Prevention and Early Diagnosis
和訳タイトル	COPDのプライマリ・ケアパート1 第一予防および初期診断
Journal	THE AMERICAN JOURNAL of MEDICINE
巻	121
号	
ページ	S3-S12
年	2008
キーワード	COPD, Diagnosis, Smoking cessation, Smoking prevention, spirometry 慢性閉塞性肺疾患, 診断, 禁煙, 喫煙, 予防, 肺機能
読んだ人	平原奈奈
読んだ期日	2009/02/24
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>アメリカにおいて COPD は未だに多くが見過ごされている重要な慢性呼吸器疾患である。この論文はプライマリ・ケアにおける COPD の予防および早期診断において述べてある。</p> <p>重要な点は以下の点である。(1)50%以上の喫煙者はある程度の COPD を発症する。(2)初期の COPD は見過ごされている(3)多くの臨床家は COPD が一部改善すると気づいていない(4)COPD の治療は症状、運動耐容能、生活の質、健康状態を改善する、そして急性増悪を予防することができる(5)診断は症状のある場合そして喫煙歴などの危険因子があるなら注意深く病歴聴取およびスパイロメトリーでなされるべきである。(6)すべての喫煙者は禁煙プログラムに組み込まれるべきである。</p> <p>プライマリ・ケア医は莫大な軽症・中等症 COPD を診察するため、COPD の重症性を認識せねばならない。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Anne Lindverg, Ann-Christin Jonsson, Eva Ronmark
Title	Prevalence of Chronic Obstruction Pulmonary Disease according to BTS, ERS, Gold and ATS Criteria in Relation to Doctor's Diagnosis, Symptoms, Age, Gender, and Smoking Habits.
和訳タイトル	BTS、ERS、Gold、ATS の診断基準による慢性閉塞性肺疾患の有病率と医師の診断、症状、年齢、性別、喫煙習慣との関係
Journal	Respiration
巻	72
号	
ページ	471-479
年	2005
キーワード	Chronic obstruction pulmonary disease, Epidemiology, Pulmonary disease, prevalence, Risk factors 慢性閉塞性肺疾患、疫学、肺疾患、危険因子
読んだ人	関塚友美
読んだ期日	2009/2/21
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>COPD の診断と管理のためのガイドラインは種々提示されているが、肺機能測定基準はガイドライン毎に異なる。BTS、ERS、GOLD、ATS のガイドラインが COPD の罹患率推定に使われている。COPD の罹患率は、BTS、ERS、GOLD、症状と医師診断の臨床的 ATS、肺機能の ATS 診断基準で、それぞれ 7.6%, 14.0%, 14.1%, 12.2%, 34.1%であった。COPD は、年齢、喫煙習慣、閉塞性気道疾患の家族歴に関連があり、性には関連が無かった。多くの人が気道症状を有しているにもかかわらず、慢性気管支炎または肺気腫と診断されていたのは、基準を満たしている 16.3%、12.2%、11.0%、23.4%、8.2%のみであった。COPD の主な規定因子は、年齢、喫煙習慣、肺機能検査であった。喫煙歴のある者は、OR が 2.12-3.81 であり、年齢 45 歳以上は OR が 1.43-3.47 であった。大多数の人が、呼吸器症状のため医療機関を受診していたにもかかわらず、COPD と診断されたのは少数のみであり、過小評価されていた。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Lopez AD, Shibuya K, Rao C, et al.
Title	Chronic obstructive pulmonary disease: current burden and future projections.
和訳タイトル	COPD の重症性の分析と将来の予測
Journal	Eur Respir J
巻	27
号	
ページ	397-412
年	2006
キーワード	COPD, mortality, disease burden, prevalence COPD、死亡率、疾患による負担、有病率
読んだ人	岡元 昌樹
読んだ期日	2009/02/22
重要度 (アカデミック)	2
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>The Global Burden of Disease (GBD) study は、疾患の死亡と致死的でないイベントの重症性について、分析している。</p> <p>2000 年には、COPD 患者の 270 万人が死亡している。その半分は、大西洋側で認められており、多くは中国で発生している。年間 40 万人の COPD 患者の死亡が産業の発達した国で発生している。1990 年から 2000 年までに COPD の死亡率が増加していることは、部分的には真実であるが、大規模試験による更なる分析が必要であると考えられる。2000 年の地域的な有病率は、アフリカの一地域では 0.5%と低く、北アメリカでは 3~4%と高かった。</p> <p>年齢コホート分析によると、COPD のリスクファクターは喫煙習慣などが要因であった。イングランドやウエールズを対象とした分析では、過去 10 年間では、COPD の死亡は、男性の 9%、女性の 5%であった。予測では、2000 年から 2009 年までに COPD の死亡率は男性で 24%低下し、女性で 2%上昇すると予測される。</p>

論文のタイプ	Review
Author	Gross N, Levin D.
Title	Primary care of the patient with chronic obstructive pulmonary disease-part 2: pharmacologic treatment across all stages of disease.
和訳タイトル	COPD のプライマリーケア： 全ステージに対する薬物療法
Journal	Am J Med
巻	
号	121
ページ	S13-24
年	2008
キーワード	Anticholinergic, β -Adrenergic, Bronchodilators, COPD, Drug therapy, Guidelines
読んだ人	岡元 昌樹
読んだ期日	2009/02/22
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	2
抄録	COPD のエビデンスに沿った診断と治療について述べた。重要な点は、①治療開始前に呼吸機能の評価が必要であること、②すべての患者に禁煙、運動療法、インフルエンザ予防接種の励行が必要であること、③軽症～中等症の患者には、長時間作用型の気管支拡張剤の投与を行うべきであること、④患者の呼吸困難の期間、運動能力、薬剤の副作用のモニタリングを行うこと、⑤厳密な治療により、自覚症状、運動能力の改善、急性増悪の減少、QOL の改善効果が期待できることである。全てのステージの COPD 患者に適したエビデンスに沿ったプライマリーケアを行うべきである。

論文のタイプ	原著
Author	Anne Lindberg, MD, PhD, Berne Eriksson, MD, Lars-Gunnar Larsson
Title	Seven-year cumulative incidence of COPD in an age-stratified general population sample.
和訳タイトル	7年間の追跡における一般集団の年齢層別 COPD 累積罹患率
Journal	CHEST
巻	129
号	4
ページ	879-885
年	2006
キーワード	Key word: epidemiology; spirometry Key word in Japanese: 疫学、スパイロメトリー
読んだ人	澤田 昌典
読んだ期日	H21/2/18
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>中年者や年配者における GOLD ステージ 0 と COPD 発現を評価することによって COPD 累積罹患率とリスクファクターを推測した。1996 年の北スウェーデン閉塞性肺疾患調査を対象とし、最終的に 963 名に 2 回スパイロメトリーを施行した。COPD は GOLD のスパイロメトリー測定基準を用い、GOLD (FEV1/FVC<0.70) と GOLD II (FEV1/FVC<0.70, FEV1<80%) の二つの基準を定義した。</p> <p>7年間の累積罹患率は GOLD、GOLD II それぞれで 11.0%、4.9%で GOLD が多い傾向にあった。また、COPD 発現には性差ではなく喫煙に有意な関連を認めた(喫煙者においては 18.8%、10.6%、元喫煙者：10.5%、5.2%、非喫煙者：7.6%、1.6%)。観察期の最初に呼吸器症状認めた場合は COPD 発現のリスクが増加した。それゆえ、中年者年配者における GOLD ステージ 0 は問題とされる。</p>

論文のタイプ	review
Author	Cooper CB, Dransfield M
Title	Primary care of the patient with chronic obstructive pulmonary disease-part 4: understanding the clinical manifestations of a progressive disease.
和訳タイトル	慢性閉塞性肺疾患のプライマリ・ケアパート4 進行性の病態の臨床症状を理解すること
Journal	Am J Med
巻	121
号	
ページ	33-45
年	2008 Jul
キーワード	COPD; Comorbidity; Hyperinflation; Exacerbation; 慢性閉塞性肺疾患、併存症、急性増悪
読んだ人	田尻守拓
読んだ期日	2009. 2. 23
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>本論文は、COPDの病態生理、症状、進行に影響を及ぼす因子について、急性増悪、併存症を含め概説している。COPDは1秒量の低下で特徴付けられているが、安静時、労作時、増悪時で複雑な病態生理および気管支拡張薬による治療のための正当性がよく理解されている。回避不能および継続性であると思われるCOPDにもかかわらず、臨床経過は実は全く可変的で急性増悪の頻度によって影響されている。薬理的、非薬理的に急性増悪を予防することは、全体の罹患率に影響させることができる。また、肺癌、虚血性心疾患、筋骨格系機能不全の併存症も患者健康に関与している。徐々にそして情け容赦なく進行するCOPDの1秒量をモニターすることで監視できることと結論する。たくさんの患者がプライマリ・ケアで管理されているが早期の積極的な管理アプローチにより利益を得る。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Yin P, Jiang CQ, Cheng KK et al
Title	Passive smoking exposure and risk of COPD among adults in China.
和訳タイトル	中国における受動喫煙暴露と成人 COPD のリスク
Journal	Lancet
巻	370
号	9589
ページ	751-7
年	2007
キーワード	Passive smoke, COPD, China, cohort study, adult 受動喫煙、慢性閉塞性肺疾患、中国、コホート研究、成人
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/2
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>中国の受動喫煙の成人 COPD に与える影響について、調査した横断的研究である。広州 Biobank Cohort Study のデータを使用した 2003-06 にかけて 50 歳以上の 20430 人の男女を対象に行われ、非喫煙者が、15,379 含まれ、(肺活量測定者は 6497) ている。自宅での間接喫煙暴露の程度は、自己申告により暴露の強度と期間により計測した。COPD の診断は、GOLD ガイドラインに従って定義している。結果、非喫煙者群において、COPD のリスクと自宅または職場での受動喫煙の強度 (週 40 時間以上、5 年以上の暴露。) は明らかに関係が認められた。呼吸器症状と受動喫煙の間の有意な関係も認められた。結論は、受動喫煙は、COPD と呼吸器症状の有病率の増加と関係している。中国では非喫煙者が、受動喫煙による COPD により 190 万人が過剰に死亡していると推定される。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Eisner MD, Balmes J, Yelin EH,
Title	Directly measured secondhand smoke exposure and COPD health outcomes.
和訳タイトル	直接測定による間接喫煙暴露量と COPD 患者の QOL との関係。
Journal	BMC Pulm Med.
巻	6
号	12
ページ	1-11
年	2006
キーワード	secondhand smoke, QOL, COPD、urine cotinine. 受動喫煙、QOL、慢性閉塞性疾患、尿中コチニン「
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/1
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>間接喫煙 (SHS) 暴露も COPD の経過に影響すると推測される。明確でない。この論文は、SHS 暴露の COPD 健康結果への影響について、米国の成人 COPD 患者を対象としたコホート研究である。COPD と診断された 77 人のタバコを吸わない回答者は、SHS の程度を推定できる尿コチニン量とニコチンパッジ装着により直接の SHS の程度を測定した。1 年の追跡調査で、COPD 重症度、身体的な健康状態、生活の質 (QOL) と呼吸困難を評価した。結果は、SHS 暴露量は、COPD 重症度と呼吸困難の程度と関係していた。直接測定した SHS 暴露量は、COPD の健康状態を悪化させる因子であり、患者個人の喫煙量とは独立した因子であった。SHS は、避けられるリスクファクタであるので、患者の SHS 暴露を正しく評価し、それを回避するよう忠告しなければならない。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Ebbert JO, Croghan IT, Schroeder DR
Title	Association between respiratory tract diseases and secondhand smoke exposure among never smoking flight attendants: a cross-sectional survey.
和訳タイトル	非喫煙キャビンアテンダントにおける、呼吸器疾患と受動喫煙の横断的研究
Journal	Environ Health.
巻	6
号	28
ページ	1-8
年	2007
キーワード	secondhand smoke, respiratory tract disease, flight attendant 受動喫煙、呼吸器疾患、キャビンアテンダント
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/4
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>飛行機客室内でのキャビンアテンダントの長時間の間接喫煙 (SHS) の健康に与える影響は、調べられていない。本論文は、非喫煙キャビンアテンダントの機内受動喫煙の期間と呼吸器疾患の関係をコホート調査した。15,000 通のアンケートのうち回収率は、14%であった。非喫煙者 1007 人の回答を解析した。結果は、54 歳の平均年齢で、白人 86%、女性は、89%であった。全体として、回答者の 69.7%は、少なくとも 1つの呼吸器疾患を持つと診断された。内訳は、43.4%は副鼻腔炎、40.3%はアレルギー、30.8%は気管支炎、23.2%は中耳感染、13.6%は喘息、13.4%は花粉症、12.5%は肺炎と 2.0%の慢性閉塞性肺疾患であった。</p> <p>客室での受動喫煙時間は、副鼻腔炎と、中耳感染そして、喘息と有意の関係が認められた。非喫煙者の受動喫煙に対する健康被害を防ぐために、室内の空気清浄化に努める必要がある。</p>

論文のタイプ	原著・総説・その他
Author	Eisner MD, Balmes J, Katz PP,
Title	Lifetime environmental tobacco smoke exposure and the risk of chronic obstructive pulmonary disease
和訳タイトル	生涯の受動喫煙と慢性閉塞性肺疾患のリスク。
Journal	Environ Health
巻	4
号	7
ページ	1-8
年	2005
キーワード	COPD, Lifetime, environmental tobacco smoke, 慢性閉塞性肺疾患、生涯、受動喫煙
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/4
重要度 (アカデミック)	5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	5 (5点がとても重要)
抄録	副流煙 (ETS) への露出は、慢性気道炎症と閉塞を引き起こす可能性がある。ETS 暴露が小児と成人で喘息を引き起こすという報告はあるが、COPD を引き起こす役割についての疫学研究は限られている。本論文は、55~75 歳の米国の成人の人口に基づいた 2,113 人のサンプルからデータをとり、生涯の ETS 暴露と COPD を呈する危険の間関係を調べた。参加者は、乱数によりダイヤルした。生涯の ETS 暴露は、構造化電話インタビューによって確認された。医師診断に基づく自己申告の慢性気管支炎、肺気腫または COPD を COPD と定義した。結果は、生涯にわたる家や職場での受動喫煙は、COPD のより大きなリスクと関係していた。家庭お呼び職場での ETS 暴露生涯累積指数の最も高い 4 分の一の群は、COPD のより大きなリスクと関係していた。結論は、ETS 暴露は、COPD の重要な原因である可能性がある。

論文のタイプ	原著
Author	Svanes C, Omenaas E, Jarvis D,
Title	Parental smoking in childhood and adult obstructive lung disease: results from the European Community Respiratory Health Survey.
和訳タイトル	小児期の両親の喫煙と成人性閉塞性肺疾患の関係：欧州共同体呼吸器健康サービスからの結果。
Journal	Thorax.
巻	59
号	4
ページ	295-302
年	2004
キーワード	Parent, COPD, childhood, smoking 両親、慢性閉塞性肺疾患、小児期、喫煙
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/14
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>本論文は、小児期や胎生期の親の喫煙が、気管支の発達に影響え、成人での呼吸器症状の素因となりうるか決定するために行われた。欧州共同体 Respiratory Health Survey に関与している 37 地域から、20-44 歳の 18 922 人を対象に、インタビュアーによるアンケート調査を行った。肺機能は、15, 901 人に行った。結果は、男性では、小児期の父の喫煙が、より多くの呼吸器症状と関係していた。また、両親喫煙と喘鳴との間の用量依存的な関係が、あった。男性では、1 秒率の減少は、父の喫煙と喫煙する親の数に関連があった。女性において、母の喫煙が、より多くの呼吸器症状とより低い一秒率と関係していた。女性における、父親の喫煙に影響されないこれらの効果は、おそらく妊娠中の母性喫煙によって惹起されたものであろう。子宮内および家庭での親の喫煙は、成人期により多くの呼吸器症状とより弱い肺機能に関連があった。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Enstrom JE, Kabat GC.
Title	Environmental tobacco smoke and tobacco related mortality in a prospective study of Californians, 1960-98.
和訳タイトル	1960-98年におけるカリフォルニアでの受動喫煙とたばこ関連死亡との関係について。
Journal	BMJ
巻	326
号	
ページ	1057
年	2003
キーワード	Environmental tobacco smoke, tobacco related mortality, Californians, 受動喫煙、タバコ関連死亡、カリフォルニア
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/14
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>配偶者の喫煙による副流煙吸入とタバコ関連死亡率の関係を調べた39年にわたる前向きコホート研究。カリフォルニア(米国)の成人118094人が1959年にエントリーされ、1998年まで追跡した。</p> <p>焦点は、配偶者が喫煙者である35561人の非喫煙者にあてた。95%の信頼区間で、配偶者の喫煙による虚血性心疾患、肺癌と慢性閉塞性肺疾患による死亡と喫煙との関連を調べた。結果、喫煙者と結婚した非喫煙者のたばこ関連死亡率は、非喫煙者と結婚した非喫煙者と比較しても、上記疾患による死亡率に差はなかった。有意な関連は、1960-5、1966-72、1973-85と1973~98年のより短い追跡期間の間にも見つからなかった。結論は、副流煙と虚血性心疾患や肺癌との間の関係は、信じられて通常、よりかなり弱い可能性がある。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Gilliland FD, Berhane K, Islam T
Title	Environmental tobacco smoke and absenteeism related to respiratory illness in schoolchildren.
和訳タイトル	受動喫煙と学童における呼吸疾患による常習的欠席の関係
Journal	Am J Epidemiol
巻	157
号	10
ページ	861-9
年	2003
キーワード	Environmental tobacco smoke, schoolchildren, respiratory illness, absenteeism 受動喫煙、学童、呼吸器疾患、常習的欠席
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/15
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>学齢に達した小児の間の受動喫煙(EST)関連の疾患罹患率はあまり明確でない。呼吸器疾患関連の学校長期欠席は、学齢に達した小児における ETS 暴露の副作用を広い意味であらわす。この論文は、1996年1月～6月の間に12の南カリフォルニア地域から1,932人の4学年の児童に対し、ETS暴露、喘息の状態と疾患関連の学校長期欠席の関係を調査した。結果は、ETS暴露は呼吸疾患関連の学校欠席のリスク増加と関係していた。家庭に2人以上の喫煙者がいる小児で有意に高かった。小児の喘息の状態は、ETSへの反応に影響を及ぼした。喘息のない受動喫煙のない小児と比較して、喘息の小児は受動喫煙にさらされると呼吸疾患関連の学校欠席の危険率が高い。2人以上の喫煙者にさらされている場合、喘息のない小児もリスク増加を伴った。結論 ETS 暴露は、小児(特に喘息の患者)の間で、呼吸疾患に関連した学校欠席を増加させている。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Xu F, Yin X, Shen H,
Title	Better understanding the influence of cigarette smoking and indoor air pollution on chronic obstructive pulmonary disease: a case-control study in Mainland China.
和訳タイトル	バコ喫煙と屋内空気汚染の慢性閉塞性肺疾患にたいする影響のより深い理解。中国本土での症例対照研究。
Journal	Respirology.
巻	12
号	6
ページ	891-7
年	2007
キーワード	indoor air pollution, Mainland China, cigarette smoking, COPD 室内空気汚染、中国本土、喫煙、慢性閉塞性肺疾患
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/15
重要度 (アカデミック)	1・2・3・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・4・5 (5点がとても重要)
抄録	中国では、COPD と喫煙状態と屋内空気汚染の間の関係が立証されているが、COPD と喫煙本数のつながりは調べられなかった。本論文では、都会と地方の中国の成人の COPD リスクと、タバコの総量と屋内空気汚染の関係を調査した。南京で 2000 年 10 月から 2001 年 3 月にかけて対象者 29 319 人について行われた。結果は、COPD 患者の間の喫煙率は、対照者より有意に高かった。喫煙者の間で、女性は有意により男性より COPD を発病しやすい。COPD と室内で使用される燃料、台所換気、受動喫煙の間に有意な関係がなかった。石炭による冬の加熱は、非喫煙者全体、女性非喫煙者において、弱く、しかし、明らかに COPD との関連があった。結論、はっきりした量反応関係が、喫煙者と COPD の間に存在する;家の他の呼吸汚染物質への暴露は、COPD と有意な関連はなかった。

論文のタイプ	原著
Author	Osman LM, Douglas JG, Garden C,
Title	Indoor air quality in homes of patients with chronic obstructive pulmonary disease
和訳タイトル	慢性閉塞性肺疾患患者の自宅屋内の空気質。
Journal	Am J Respir Crit Care Med.
巻	176
号	5
ページ	465-72
年	2007
キーワード	Indoor air quality, COPD, home, PM2.5、NO2 室内空気質、慢性閉塞性肺疾患、家庭、 、二酸化窒素
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/15
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>本論文は、COPD 患者の家庭室内の空気質と彼らの健康状態の関連を調査した。148 例の北東スコットランドの重篤な COPD 患者の自宅の屋内の空気質を検討した。リビングルームの PM2.5 やそれ以下の粒子状物質を 8~14 時間にわたって測定した。二酸化窒素は、1 週にわたって測定された。リビングルーム塵のエンドトキシンも、測定された。健康状態は、SJRQ によって評価した。平均年齢は、69 歳。約 45%は男性、39%は喫煙者、49%は家庭内喫煙環境にあった。家庭内喫煙環境下では、PM (2.5) は、有意に極めて高く、エンドトキシンと NO2 も有意に高値を示した。現喫煙者では、PM2.5 の増加と症状の悪化は有意に関連していた。エンドトキシンと二酸化窒素暴露は、健康状態に関連がなかった。結論は、PM2.5 の高値は、重篤な COPD 患者のより悪い健康状態と関係していた。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Lawlor DA, Ebrahim S, Davey Smith G.
Title	Association of birth weight with adult lung function: findings from the British Women's Heart and Health Study and a meta-analysis.
和訳タイトル	成人期肺機能と出生時体重の関係:英国の Women's Heart and Health Study の結果とメタアナリシスからの所見。
Journal	Thorax.
巻	60
号	10
ページ	851-8
年	2005
キーワード	birth weight, lung function, England, meta-analysis. 出生時体重、肺機能、英国、メタアナリシス
読んだ人	
読んだ期日	2009/03/5
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	5
抄録	<p>本論文は、60-79歳の女性の肺機能と彼女らの出生時体重との間の関係を調べ、さらに他の発表された調査を加え、メタアナリシスを行った。60-79歳の2257人の英国の女性において、自己申告の出生時体重と調査時の一秒量、努力肺活量、FEF25-75の測定値との関連を調べた。結果、出生時体重と肺機能の3つの計測の間には線形の関連が認められた。1kgの出生時体重につきFEV1の変化は、0.011であった。FVCは0.021であった。生涯の社会経済位置、ボディーマスインデックスと喫煙による調整を行っても、これらの関連は認められた。成人の8つの他の研究でも、出生時体重とFEV1の関連が示唆された。結論として、出生時体重と肺機能の間の関連は、子宮内環境が肺の発達に影響することが示唆された。</p>

論文のタイプ	原著
Author	藤森 敬也、古川宣二、本田任
Title	福島県における単胎正期産児の出生体重への母体喫煙の影響
和訳タイトル	
Journal	福島医学雑誌
巻	58
号	3
ページ	200-205
年	2008
キーワード	単胎正期産児, 母体喫煙, 出生体重
読んだ人	土橋邦生
読んだ期日	2009/03/5
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>本論文は、福島県において、平成 18 年 7 月 1 日から 1 年間に分娩した単胎正期産児に対して、母親の喫煙習慣および受動喫煙の有無に関しアンケート調査を行い、後方視的に解析を行ったものである。3, 110 症例中、妊娠中の喫煙習慣ありは、731 人で、これらの妊婦からの出生児平均体重は喫煙習慣なしに比べ有意に小さかった。受動喫煙ありは、2, 446 人であり、これらの妊婦の出生児平均体重は、なしとの間には有意差を認めなかった。出生児体重を従属変数とした場合の重回帰分析の結果、喫煙本数が有意な変数として選択され、母体年齢、受動喫煙の有無は有意とはならなかった。さらに、母体喫煙平均本数が 1 日 1 本増加するごとに児の出生体重は平均 4. 9g 減少した。今後、さらなる平均出生体重の減少と低出生体重児の増加を食い止めるためには、妊娠中の禁煙指導は重要であると考えられた。</p>